678.25
N772

678. 25-N772ウ
1200500750587

南米資料

第一輯

始

912
173

中南米資料

第一輯

日本中南米協會編

678.25
N772

資料第一輯

我國の對中南米貿易事情の紹介

中南米貿易を繞る獨、英、米の角逐

加藤源次述

日本中南米協會編

昭和堂 帝國文庫

ハイチ、ドミニカ國境

ハバナ市

ドミニカの兵隊

露光量違いの為重複撮影

912
173

はしがき

本書は當協會理事長加藤源次氏が、昭和十五年三月二十日と昭和十六年三月八日の二回に亘つて、大阪中央放送局より放送された講演原稿を、その儘收錄したものである。

内容は、何分にもそれが放送原稿であり、且つ二十分間と言ふ短時間なものであるため、專門の研究資料としては、或は參考に供し難いものであるかも知れない、が然し概略的に〝中南米貿易とは〟と言ふことを最も簡單に分り易く且つ正確に認識するには、將に正鵠を射たるものと確信する。

近來、中南米への關心が頓に昂つて來た折柄複雜極まる國際外交戰の渦中にあつて、營々として〝民族の力〟を培ひつゝある中南米諸國民、今後に於ける動向こそ、他日、廿世紀の新秩序建設に於ける派生的成果として、米洲大陸に、**ラテン**民族の大發展を期待することが出來よう。

幸ひ、加藤理事長の前後二回に亘る放送は非常に好評を博し、更に放送原稿を求められる向も尠くないのに鑑み、今回愛に本書を刊行することゝなつた次第で、放送を聞かれなかつた向は勿論、既に放送を聞かれた向も、改めて〝目〟に依つて一讀されんことを希望する。

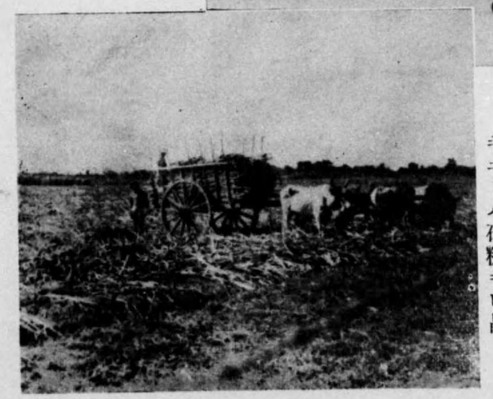
卷頭の風物寫眞は、客年商工省より市場調査員として彼地に派遣された神戸雜貨中南米輸出組合書記長福地昇氏が撮影、提供されたもので、卷末の統計、**グラフ**は、當協會調査部に於て作成したものである。

昭和十六年三月　　日

日本中南米協會編

キューバ日含風景

ハイチ市場風景



キューバ砂糖キビ畠

露光量違いの為重複撮影

912
173

はしがき

本書は當協會理事長加藤源次氏が、昭和十五年三月二十日と昭和十六年三月八日の二回に亘つて、大阪中央放送局より放送された講演原稿を、その儘收錄したものである。

内容は、何分にもそれが放送原稿であり、且つ二十分間と言ふ短時間なものであるため、專門の研究資料としては、或は參考に供し難いものであるかも知れない、が然し概略的に〝中南米貿易とは〟と言ふことを最も簡單に分り易く且つ正確に認識するには、將に正鵠を射たるものと確信する。

近來、中南米への關心が頓に昂つて來た折柄複雜極まる國際外交戰の渦中にあつて、營々として〝民族の力〟を培ひつゝある中南米諸國民、今後に於ける動向こそ、他日、廿世紀の新秩序建設に於ける派生的成果として、米洲大陸に、**ラテン**民族の大發展を期待することが出來よう。

幸ひ、加藤理事長の前後二回に亘る放送は非常に好評を博し、更に放送原稿を求められる向も尠くないのに鑑み、今回爰に本書を刊行することゝなつた次第で、放送を聞かれなかつた向は勿論、既に放送を聞かれた向も、改めて〝目〟に依つて一讀されんことを希望する。

卷頭の風物寫眞は、客年商工省より市場調査員として彼地に派遣された神戸雜貨中南米輸出組合書記長福地昇氏が撮影、提供されたもので、卷末の統計、**グラフ**は、當協會調査部に於て作成したものである。

昭和十六年三月　　日

日本中南米協會編

キューバ日含風景

ハイチ市場風景

キューバ砂糖キビ畠

目次

我國の對中南米貿易事情の紹介……五
一、邦品の進出狀況……五
二、貿易市場としての有望性……六
三、輸出障害の諸原因……八
四、有利な米、英、獨の立場……一一
五、彼を知り！　我を知らしめ！……一二
中南米貿易を繞る獨、英、米の角逐……一四
一、角逐の諸原因……一四
二、各國勢力の興亡……一六
三、獨、米政策の基調……一九
四、汎米主義強化に癌……二〇
五、尊き民族意識……二二
附錄
一、中南米諸統計表……二三
イ、ラテン亞米利加諸國の貿易……二三

ロ、米國の事業投資額……二四
ハ、英國の對ラテン亞米利加投資額……二五
二、中南米諸統計圖表
イ、南米諸國の輸出入貿易總額……二七
ロ、中南米諸國貿易額……二八
ハ、ラテン・アメリカ主要農產物輸出狀況……二九
ニ、亞米利加合衆國のラテン・アメリカ諸國に對する投資狀況……三〇
ホ、ラテン・アメリカの對五大洲別貿易……三一
三、日本中南米協會々則……三三

我國の對中南米貿易事情の紹介

加藤源次

事變下の我が國に於きまして、海外貿易と云ふものが如何に重要な役割を努めて居るかと云ふ事は、今日、既に國民の常識になつて居る事と思ひますが、本日はこの貿易關係の中、對中南米貿易事情と云ふものに就いて、二、三お話し申上げて見度いと思ひます。

昨秋歐洲の天地に再び戰亂が勃發致しました結果、我國貿易界に於きまして、最近又々中南米市場の重要性と云ふ事が、非常にやかましく云はれて居ります。先づ話の順序と致しまして、日本と中南米諸國との貿易額、及中南米とは如何なる處か？　と云ふ樣な事に就いて簡單に御說明申上げて見度いと存じます。

邦品の進出狀況

一體この中南米方面に對し、我が國はどの程度の貿易額を持つて居りますかと申しますと、最近四ヶ年間に於きまして輸出の合計は約四億六千萬圓、卽ち一年平均一億一千五百萬圓と云ふ事になります。尙又輸入は五億三千萬圓、一年の平均に致しまして約一億三千二百萬圓程度のものであります、では次に何時頃から我國はこの方面と交易を開始したのであるかと申しますと、既に三十年前に於きまして相當な物資が我が國から之等諸國へ行

つて居るのであります、唯御承知の如く、その頃は未だ日本人直接の海外貿易と云ふものが尠く、貿易は多く横濱神戸等に居住する外人の手に握られて居りました關係上、一般國民の中南米に對する認識等も殆んど無かつたと云ふ樣な譯であります。然るに其の後第一次歐洲大戰を轉機と致しまして、日本人貿易商の力もグングンとのびて參り、新市場中南米と云ふ聲が、日本人の間にも漸次擴がつて來た樣な次第であります。事實昭和八、九年頃の中南米市場に對する我國の輸出進展振りと云ふものは實に目醒しいものでありました。唯、餘り進出に急でありました爲、又、一面には英、米、獨、佛等の既得地盤を危ふくしたと云ふ樣な複雜な事情等もありまして、この洪水の樣な進出振りも昭和十年には遂に一頓挫を來たしたのであります。

この時、我が國に對しまして、特別な高率關稅を掛けたり、又は輸入割當制、或は爲替管理による輸入許可制等の手段によりまして、我が商品の輸入を極度に制限致しました國々は、**ガテマラ**、**サルバドル**、**キューバ**、**ハイチ**、**コロンビヤ**、**エクアドール**等々でありますが、では何故之等の諸國が、當時日本品の輸入を拒絕したかと云ふ點……之が現在、又將來に於ても我が國が中南米市場を確保して行く上に於て相當重要な研究題目となるのでありますから主としてこの點を中心と致しまして以下私の話を續けて行き度いと考へます。

貿易市場としての有望性

一口に中南米と申して居りますが、中米には**メキシコ**の外に、六ヶ國あり、次に**カリビヤン**海……このカ

リビヤン海と云ふのは廣い意味で南北兩**アメリカ**大陸を區分して居る海でありますが、最近**ドイツ**の潜水艇が出沒したとかの噂のある米領の**ポート・リコ**島もこの**カリビヤン**海にあります。この**カリビヤン**海には**キューバ**、**ハイチ**、**ドミニカ**の三ケ國があり、次で南米には十ケ國、合計二十の獨立國が所謂**ラテン・アメリカ**を作り上げて居るのであります。さてそれでは先づ之等の諸國に於て如何なる言語が使はれて居りますかと申しますと、**ブラジル**に於ける**ポルトガル**語、**ハイチ**國で用ひられて居ります**フランス**語を除きますと、他は全部**スペイン**語であります。この點十五世紀末葉の**スペイン**人のこの方面に於ける植民政策と云ふものゝ力を今更深く感じさせられる次第であります。次に住民はと申しますと古來土着の土人をはじめとし、**アメリカインデヤン**、或は**アフリカ**系の黑人、及び之等に**スペイン**人の血の混つたもの等實に雜然として居りますが、各國を通じて白人系統四分に黑人系統六分と云ふ位の混血のものが最も多く見受けられる樣であります。

次に產業でありますが、之等二十ケ國の殆んど凡てが農業國であります。而もその主なる農產物は、**コーヒー**、**ココア**、**バナナ**、砂糖等であります、勿論中には**メキシコ**の如く、銀と石油を以てよく知られて居る國もありますし、智利の硝石、**ポリビヤ**の錫、**アルゼンチン**の羊毛、小麥等の如く、世界的に有名な特產物も多々あるのでありますが、その他の諸國は概して今申し上げました樣な、僅か二、三種の農產品を生命とする、典型的な農業國なのであります。從つて自分の國に工業と云ふものを持たない、卽ち衣、食、住の中、食の部分だけはどうやら自給自足でやつて行けるが、衣と住、卽ち日常生活品に付ては、衣類は勿論の事、帽子から靴下迄舶來品と云ふ工合、建築材料も**セメント**も、凡て海外から供給して貰ふと云ふ立場にあるのであります。この點、輸出輕工

業品に付て、獨自の强味を持つて居ります我が國商品のハケ口として、實に理想的であり、且つ大切な御得意様と申さねばならないのであります。又先方にとりましても日本商品は當然一般大衆の生活に無くて無らないものとなつて居るのであります。

尤も以上の點につきましても、多少の例外は勿論あります。卽ち中南米でも、**メキシコ**、**ブラジル**、**アルゼンチン**と云ふ様に、既に皆様の耳に聞き慣れて居る様な大國に於きましては、織物工業とかその他各種の工業が相當發達して居りまして、一概に前述の様な事が申上げられる譯のものでもありませんが、先づ今申上げました三ケ國を除けば他は各國とも極く產業形態の單順な原料國である、と云ふ事が申上げられる次第であります。

輸出障害の諸原因

此處で話が一寸元へ戻りますが、では何故之等の原料國、卽ち日本品の欲しい立場に在る、**キューバ**とか**コロンビヤ**とか云ふ國々が、昭和十年頃に、一齊に日本品を排斥したのでありませうか？　これには前にも申上げました様に、當時餘りにも急激であつた日本商品の進出振り、之によつて脅やかされた英、米等の既得地盤保持の運動等、種々複雜微妙な關係が潜在して居つたのでありますが、茲に最も重要な事は、當時それ等の國々に對して、日本は自分の商品を賣込む許りで、少しも先方の品物を買はなかつたと云ふ事であります。

實際問題と致しまして、先方の輸出して居る物資と申しますと、**コーヒー**、**ココア**、**バナナ**……と、先づ

斯う云ふ有樣でありますから、日本としては全く餘り要らないもの許りなのです。そこでマア問題になる迄はホ、被りで賣れる丈け賣れ、……と許り進んだ譯なのでありませうが、之を又先方の立場から考へますと、實に重要な問題となるのであります。卽ち、何度も繰り返す樣ではありますが、先方は原始農業國に近い樣な國々判りやすく申しますと、**コーヒー**を賣つてその金で始めて着物が買へる、……とこう云ふ譯でありますから勢ひ自國農產物の輸出市場確保と云ふ事は、各國共その產業貿易政策の第一番目に持つて來て居るのであります云ひ換へますと自分の國の**コーヒー**や**ココア**を買つてくれる英國、米國又は獨逸等は、大切なお客樣であるが、反對に日本は困る、と斯う云ふ事になるのであります。之は又**ギブ・アンド・テイク**と云ふ、萬國共通の貿易原則から申しましても洵に尤もな事でありますし、尤もではあるが先方から買ふ適當な品物の發見に苦しむ我々にとりましては常に一番苦しい難問題なのであります、この點我が國の中南米關係貿易業者を總動員致しまして、作り上げて居ります中南米輸出組合に於きましても、何とかして日本と之等諸國の貿易の**バランス**を、或る程度維持して行き度い、と云ふ事を目標に致しまして、色々な事業を行つて居るのでありますが、最近では實際問題と致しまして、中米の**コスタリカ**共和國、例の運河で名高い**パナマ**國の北に接して居る國でありますが……そのコスタリカに於きましては、既に二年前から日本人の技師による棉花栽培の指導を行ひ、棉の試作農場迄も組合の資本によつて經營して居るのであります、之等はどうしても先方に日本の望む樣な買付品が無い、ヨシ、デハ新しい產業を相手國に起して、進んで買付物資を作らうと斯ふ云ふ計畫なのであります。

元來中南米諸國に於きまして、現在英、米、獨等の欲する**コーヒー**とか、或は**アメリカ**の必要な**バナナ**とかの產

業のみが都合よく存在し、一方、工業的發展に於ては云ひ合せた樣に全く遲れて居ると云ふ點をとり上げてよく考察致して見ますと、其處に深い〳〵英、米、獨等の巧妙な經濟政策が窺ひ知られる譯でありまして、この點我が國に於きましても、將來充分研究の要があるものと思ひます。尤も最近の海外**ニュース**によりますと、既に北米あたりでは**コーヒー**等に付ても、從來の單なる飲料にのみ使用して居た範圍を一歩ふみ出しまして、科學的研究の結果、**コーヒー**から**ブラスター**を作成する事に成功したとの事であります。斯う云ふ事は我國にとりましても非常に重要な事でありまして、この種**ブラスター**の研究は勿論の事、或は中南米から持つて來た**コーヒー**、**ココア**を、我國で加工致しまして、再び之を海外市場へ賣り出す、と云ふ樣な事も實行して見度いと考へて居るのであります。

以上申し上げました如く、我が國は中南米市場に於ける英、米、獨、佛、西、伊等の諸國との爭覇に於きまして、貿易**バランス**が適當にとれて居ない、と云ふ根本的に大きな**ハンデイキヤツプ**を附せられて居るのでありますが、それ以外にも色々な點に於きまして、日本商品は**イバラ**の道を歩むで居るのであります。この點に付てお話し申上げるには先づ歐米各國が現在、如何なる點に於て中南米市場に勢力を有し、有利な立場に在るか、と云ふ事を申上げるのが、早判りかと思ひます。

有利な米、英、獨の立場

先づ順序と致しまして北米に付て簡單に申上げて見度いと存じます。北米合衆國が中南米諸國に對し、如何に重大な關心を有つて居るか、と云ふ事は最近の新聞紙上に現れる度々の**ニュース**によつて、皆樣も充分御承知の事と存じますが、第二次歐洲戰勃發の結果、どうしても英、獨等の强力な諸國が、中南米市場から一歩後退を餘儀なくせられて居る今日、之にとつて代つて北米が、全面的に**ラテン・アメリカ**諸國を制壓し、完全な南北**アメリカ・ブロツク**と云ふものを、作り上げ度いと云ふ望みに燃えて居る事は明らかであります。從來とても、**メキシコ**を除く中米の群小共和國、又は**カリビヤン**海の**キューバ**、**ハイチ**、**ドミニカ**等の諸國は、殆んど北米の勢力下に在りまして、政治、經濟の實權は、全く**アメリカ**の手中に握られて居る、と云つても過言でない樣な形を示して居るのであります。產業の所でも、一寸申上げましたが、中米及**カリビヤン**諸國に於ける、**バナナ**の栽培、或は砂糖の事業等は、凡て北米の資本によつて爲されて居るのであります。

次に英國でありますが、英國の中南米に於ける勢力範圍は、**チリー**、**アルゼンチン**、**ブラジル**、**ペルー**この四ケ國になつて居ります。要するに、北米が**メキシコ**から中米一帶にかけて勢力を張つて居りますのに對し、英國は大體南米に於て拮抗して居る、と云ふ形であります。英國はこれらの**ペルー**、**ブラジル**方面にかけて、非常に多額の投資をして居りまして、一例を申しますと、**アルゼンチン**だけでも五十億圓以上の投資を一國でやつて居ります。その他**チリー**、**ペルー**、**ブラジル**の方面に向つて、相當な投資をして居りまして、中南米の鐵道と云ふ

ものは英國が大部分經營して居る樣な有樣であります。偖ドイツは如何と申しますに第一次ヨーロツパ戰爭迄はドイツもこの方面に相當な勢力を持ち、又投資をして居りましたが、歐洲大戰後、それらの全部が一掃されて了ひまして、今日ではドイツ人の勢力と云ふものは、大部分エーゼント又は小賣商と云ふ樣な商人的なものとなつて居ります。但し御承知の如く、勤勉にして且つ頭の良いドイツ人の事でありますから、假令商人的な勢力と云つても、その力は實に侮り難いものであります。尤も今次の歐洲大戰の展開如何によつて、今迄申上げました樣な既成勢力と云ふものが、如何に變化して行くかと云ふ事は、全く豫想出來ない譯でありますが、大體に於て歐米の諸國は、地理的に、又は經濟的に、或は政治的に、斯くも有利な條件を、中南米に有して居るのであります この點、資本的に何等のバツクも無く、先方に日本人の販賣網も別に持たない日本商品と云ふものが、唯々、廉い、と云ふ一點を武器として、年々一億數千萬圓の輸出額を獲得して行くのですから大變なのであります。

彼を知り！　我を知らしめ！

結論として、これからの貿易は商人だけの努力では駄目である。と云ふ事を申上げ度いと思ひます。人間も行け！　資本も行け！　さうして彼を知り、我を知らしめ、國と〳〵が結び付て行くのでなければ駄目であります この意味に於て、最近アルゼンチン國から、遙々訪日經濟使節團の來訪したと云ふ事など、洵に慶賀すべき事であり、又過日外務省の發表した所によりますと、近々メキシコからも經濟使節が來訪するとか云ふ事でありますが、實に之等は日本と中南米諸國の國際親善、即ち貿易振興に重大な貢獻をなすものであると堅く信ずる次第であります。

（昭和十五年三月廿日放送）

中南米貿易を繞る獨、英、米の角逐

日、獨、伊の三國が東亞及び**ヨーロッパ**に於て、二十世紀の新秩序建設と云ふ、共通の大目的完逐の爲起ち上つて以來、之を快しとしない、所謂英、米其の他舊體制國家群との對立、摩擦と云ふものは、支那事變及び第二次歐洲戰亂を繞つて、宣戰布告のあると無いに拘らず、事毎に表面化致して來て居り、政治上、經濟上、其の外交戰は愈々熾烈となりまして、今やその及ぶ所を知る事が出來ないと言ふ迄に、國際情勢は逼迫して來たのであります。

角逐の諸原因

扨てこの最も熾烈なる外交戰の渦中に卷き込まれ、その歸趨、世界注視の的となつて居りますものに、只今から私がお話し申上げ度いと存じます、中南米諸國があるのであります。話しの順序と致しまして、何故、現在の複雜且つ多岐であります國際外交戰に、中南米諸國が卷き込まれなければならないか、と言ふ事を最初に申し述べ度いと存じます。

我々は、一口に中南米と、よく申しますが、先づ一番北にある**メキシコ**、次に中米に六ケ國、それから**カリビアン**海に**キューバ**、**ハイチ**、**ドミニカ**の三ケ國、尙南米に十ケ國と合計二十個國が夫々獨立の共和國或は合衆國

として存在してゐる他、**イギリス**、**フランス**、**オランダ**等歐米諸國の植民地、又は屬領がその間に介在してゐるのであります。そして、その面積は二千百五十萬平方粁、即ち日本內地の約七百倍と言ふ尨大な地域を擁してゐますのに拘らず、人口は僅かに一億三千萬人を算へるに過ぎないのであります。從つて、その尨大な土地の大部分は未開地であります。然もこの尨大な土地は地味が肥沃で、その產物は、御承知の樣に、**コーヒー**を始じめ**棉花**、**小麥**、**植物油**、**皮革**、**肉類**、**バナナ**、**ココア**等を多量に產出し、更に山嶽地帶乃至平地の一部に於きましては、**ニツケル**、**錫**、**アルミニューム**、**滿俺**、**金**、**銀**、**銅**、**硝酸**、**鹽**、**石油**等、重工業に必要な鑛物を多量に產出するのであります、加ふるに中南米諸國中には今日でも文化の程度が至つて低い國が相當あり、且つ自分の國に生產工業と云ふものを殆んど持たない國が多數あります結果、建設資材、或は生活必需品と云ふものに付ては、その何れをも歐米又は我國等先進國の供給に俟たねばならない狀態に置かれてゐるのであります。斯樣な次第でありますから、歐米其の他先進工業國にとりまして、中南米諸國は、極めて無理のない貿易が、容易になし得られる所の、誠に有難い、然かも有望な市場と言ふことになるのであります。

この有望な中南米市場に對しまして、比較的地理的に惠まれて居ります處の獨、英、米を始じめ歐米の各國が見逃す筈の譯もなく、第一次歐洲大戰後の世界的經濟恐慌を契機と致しまして、獨、英、米を中心に、中南米市場獲得の爲め、激甚な角逐が行はれ來つたのであります。加ふるに今次歐洲大戰勃發の結果、中南米諸國の動向及びその地理的地位と云ふものは、一層重大な意味を持つ樣になつて來たと考へられるのであります。即ち獨逸は、尠くとも對英戰鬪中は中南米諸國から、必要な物資を輸入し、更に中南米の慾する物資を供給し度いであり

ませうが、現情は容易にこれを許さないのであります、と言つて最も地理的に惠まれた米國に中南米諸國の死活を握らせると言ふことは、現在援英に躍起となつて居る處の**アメリカ**を、益々强大にならしめると同時に、直接間接たるを問はず、**ドイツ**にとつて非常な脅威となるからであります。一方米國に於きましては、彼のモンロー主義實踐强化のため、又民主々義國家として非常に恐れて居る處の、獨、伊等の全體主義が、**アメリカ**大陸へ進出して來ると云ふ事を押さえる爲、將又、所謂世界一を誇りたがる、**ヤンキー**氣質から申しましても、貿易は勿論、政治上にも經濟上にも、此の際中南米諸國を、徹底的に米國の、勢力下に置かねば承知出來ないと云ふ譯なのであります。

然し乍ら、弱少國、中南米諸國と申しましても、その一つ一つには、血もあり、生命もあり、そして意志があり、其處に又民族としての自覺、或は誇りが存在する以上、これら諸國を繞る先進國の政略と睨み合ひまして、更に複雜、微妙な動きを示さんとしてゐるのであります。

各國勢力の興亡

元來、中南米諸國は、**スペイン**、**ポルトガル**兩國の、海外雄飛の華やかでありました時代に、この兩國に依つて發見、開拓され、その植民地となつたのでありますが、その後ナポレオンの歐洲席卷に續き、英國の擡頭に依りまして、**スペイン**、**ポルトガル**の勢力は、漸次後退を餘儀なくされ、更に老獪を極めました英國の、暗躍が物を言ひまして、一八一〇年前後に**チリー**、**メキシコ**、**ブラジル**、**ヴエネズエラ**、**コロンビア**等の諸國が、相次いで獨立したのであります。此等諸國の獨立運動に、凡ゆる手段を盡して援けたのは、勿論英國なのであります。從ひまして以上の諸國が獨立したとは言ひますものゝ、英國資本の支配下に屈せざるを得ないのは當然の成行でありまして、爰に英國は中南米に對して、初じめて確固たる基礎も持つたのであります。處で米國はどうかと申しますと、英國に比べて非常に立遲れてゐたのでありますが、第一次歐洲大戰の結果、米國は債權國として、また持てる國として、中南米諸國に於ける英國の既存勢力を、壓倒し初じめたのであります。英國の對中南米工作二百年間の努力は、歐洲第一次大戰に依つて、僅か廿年の短時日に米國が幸運にも肩替りし得ることを決定的にせしめたのであります。勿論これには、米國としても、一八二二年にモンロー主義を宣言して以來、武力干涉に福音政策に、或は弗外交、善隣政策、最近に至つては汎米主義の强調等手を代へ品を代へると言つた、對中南米政治工作が、効を奏したことは言ふ迄もありません。

そこで、獨逸の進出振りはどうであつたかと申しますと、獨逸は第一次大戰の戰敗もありまして、米國に比較し更に〳〵立遲れてゐたのでありますが、戰後の世界的經濟恐慌に伴ふ英、佛、米等の、排他的貿易ブロック主義に對抗する爲め、又獨逸再建の鋼鐵の如き意志と、異常なる活力に依りまして、當時新市場としての中南米諸國に、活路を求めたのであります。併し獨逸は英國の如く、また米國の如く、中南米諸國に於いて、巨額の資本投下をなした譯では無く、現在中南米の各國に多數居住して居る所の**ドイツ**人商人……彼等は嘗て**ドイツ**の植民政策の第一線商士として、中南米に出掛け、現在では中南米諸國の至る所で、根强い商業的勢力を持つて居

ります。……之等商人の持つ商業的地盤を、巧妙に利用した所の求償主義に依るバーター制を武器として、猛烈に進出したのでありをす。更に獨逸にとりまして非常に都合のよいことには、最初申し上げました樣に、**ドイツ**が中南米諸國から買入れるものは、その過剰生産物である處の、農産物、又は鑛産物であり、中南米諸國が獨逸に求めるものは、獨逸に於て最も得意とする所の、精密機械であり、また容易に生産し得る消費財であります。斯樣に極めて自然的な相互の慾求に加ふるに、彼のアスキマルクと稱する特殊な、且つ極めて巧妙な爲替補償制度を武器と致しましたので、強力な米、英の既存勢力の間隙に克く喰ひ入り、茲に第一次歐洲大戰から、第二次歐洲大戰に至る迄、中南米市場に於て獨、米、英は激烈なる通商貿易戰を演じたのであります。

今、この成果を統計に依つて申し述べれば、誠に好都合なのでありますが何分時間の都合もあり、極く概略を申上げますと、中米に於きましては、何れの國に於きましても、米國が殆んどその國の貿易額の五割近くを占めて居りまして、第一位、次に**ドイツ**、英國と云ふ樣な順序になつて居り、南米に於きましても、**アルゼンチン**は例外でありますが、その他の國々では之亦**アメリカ**が、殆んど各國貿易額の第一位にあり、次に獨、英が第二位を爭つて居る、と云ふ樣な工合になつて居るのであります。蓋し戰前に於ける獨逸の進出振りは、强力なる既存の英、米勢力によく拮抗し、然かも斯く迄進出したことは、實に驚異に價しますと同時に、この有望な市場に對する我が日本の、現在に於ける寥々たる貿易振りと云ふものは、洵に一考を要する次第であります。斯くてこそ最近我が朝野を擧げて對中南米貿易振興の必要性が叫ばれてゐる所以でもあります。

獨、米政策の基調

處で、更に今次歐亂に至る迄の、中南米に於ける英、米、獨の貿易政策の基調を檢討して見ますと、非常に面白い、然も各國共通性が存在してゐる事を見出すのであります。

所謂米國の「**バナナ**政策」**ドイツ**の「**コーヒー**政策」と云ふものがそれであります。この兩政策の研究に付ては、確か**アメリカ**で立派な書物が發行されて居る筈ですが、簡單に申上げますと、米國の**バナナ**政策と申しますのは、米國資本に依つて中南米諸國に**バナナ**を栽培させ、これを一手に米國が集荷しつゝあるのであります。獨逸の珈琲政策は、米國の夫れとほゞ相似たもので、歐洲に於いて獨逸が珈琲の一大集荷を目論んだのであります。では何故兩國が斯樣な事をしたかと申しますと、米國は中南米諸國が、工業國として發展すれば、する程、自國の汎米主義强化が困難になることを恐れ、獨逸は又自國の對中南米輸出商品が、何れも工業生産品なるが故に、兩國共に、**バナナ**に依り、また珈琲に依り、中南米諸國の産業と云ふものを夫等農産物の生産に止めて置く可く誘導したのであります。換言すれば、獨、英、米共に中南米諸國が近代國家の樣式を備へ、工業國家として、急速に發展するのを喜はず、寧ろ之を阻止しつゝあつたのであります。

以上申し上げましたのが、今次歐亂勃發迄の、中南米に於ける獨、英、米の角逐狀態でありますが、今次歐亂勃發の結果として、獨、英は一時その競爭場裡から、退場を餘儀なくされ、殘るは米國のみとなり、その優位の地位は、更に優位となつたのであります。從ひまして米國としては好機到來と許り、從來の經濟的進出から一躍

し、これに加ふるに政治色を多分に加味せしめて、急速に汎米主義の強化を圖らんとしてゐるのであります。この間の消息は、最近のことでありますし、殊に新聞紙上で皆様よく御存じのことですから、精しくは申上げませんが、昨年の夏**ハバナ**に於て開催されました汎米會議の決議、或はその後の情勢等が、よくこれを裏書きしてゐるものと存じます。

斯くの如く現在米國が、中南米諸國に對して行つて居る政策、即ち金に物を言はせる處の借款政策、或は武器に依る恫喝政策と云ふ様なものによつて、果して中南米諸國を、自家藥籠中のものになし得るかどうか、勿論我々と致しましては、中南米諸國に對する米國の優位を認めると同時に、汎米工作の成果に就きましても、或る程度高く評價せざるを得ないのでありますが、又反面、汎米主義強化の、容易に實現し得ない點をも、多少共に指摘し得るのであります。

汎米主義強化に癌

と申しますのは、屢々述べました如く、中南米諸國は一大農業國として、農産物を輸出することに依つて、その經濟的基礎が初じめて確立し得るのであります。處で現在では歐亂のため、その一大消費市場であつた所の歐洲市場を喪失し、結果過剰農産物を抱えて、非常な經濟的苦境に立つて居るのであります。勿論この過剰生産物を金にあかして米國が買付ければ問題はない筈でありませうが、いくら持てる國、米國にしても、この尨大な物資を全部買付けると云ふことは困難であり、例へ買付け得たとしても、これらの過剰生産物は、自國に於ても過剰物資であり、これを如何に處理し、更にこれに依つて來たる處の生産統制、市價の維持を如何にするか？ とても出來ない相談と言ふより他ないのであります。さればこそ、あの米洲輸出會社案も單に何事も大まかな米國の空論として止まり、一笑に附されて了まつたのであります。それ許りでなく比較的米國の手の屆き難い南米諸國に於ては、この過剰物資を圓滿に交流せしめるべく、最近伯亞協定が締結されたのであります。勿論米國にとつていゝ結果を齎すものではありません。茲に米國の惱みがあり、また中南米諸國が歐洲とは切つても切れない自然の慾求に依つて、因果關係が結ばれてゐるのであります。

獨逸はこの間の事情を察知しましてか、今次歐亂勃發と同時に、中南米諸國に對し、戰爭が終結したならば直に獨逸は「凡ゆる援助を惜しまない」旨の確約をなす一方、對英戰闘に大童と思ひの他、最近の情報に依りますと、中南米諸國が最も慾する醫療、化學藥品を飛行機に依つて供給し、更に中南米に於ける獨逸系銀行をして、經濟的苦境に陷入らんとして居る中南米諸國の商人に對して、金融の道を拓かしめる等、凡ゆる手段に依つて、消極的乍ら中南米市場の保持に、努力しつゝあるのであります。餘裕綽々と申しますか、强敵を前に、この獨逸のやり方に就いては、我々として大いに學ぶべき處があるのではありませんか。

ともあれ米國としては、その汎米主義の實踐强化は着々と進めつゝあり、既に中米に於ては、經濟上、政治上に於て比較的早くから成功してゐたと言ふことが言へませう。即ち一九〇三年**コロンビア**から**パナマ**共和國を獨立せしめた革命を支援し、次いで**ニカラガ**の**ツエラヤ**獨裁政治の瓦解に、支援を與へて、事實上の保護領となし

更に墨國に對しては、内政上から同國を自由に操縦し、もし米國にとつて都合の悪い政權が樹立されゝば、反對派に金と武器とを與へて、内亂又は革命を起さしめ得るが如く、その死命を完全に握つてゐるのでありますが然し夫等中南米諸國が自國の死命を制せられ、決して滿足してゐるのではありません。

尊き民族意識

私は結論として斯く申し度いのであります。それは米國が、如何樣に金と武器とに依つて、中南米工作に躍起になりませうとも、最後迄民族の意識は失はれるべきものではないのであります。況や中南米諸國民は、英、米國人の如く、アングロサクソンでもなければ、また**ゲルマン**族でもなく、その大部分は**ラテン**民族なのであります。**ラテン**民族は、先天的に、そして心から**ヤンキー**を好きになれず、内心鬱々としてゐるのであります。今や中南米諸國民は、この世紀の嵐に、民族としての自覺を呼びさまされつゝあります。幸ひ我が大和民族は**ラテン**民族と一脈相通ずる處のものがあります。依つて我々はこの相似通ふ民族の血汐の尊きに依り、先づ文化的に結合し、而して善隣として經濟上お互に相通ずることにより、現在の友好關係をより一層深めることが肝要であると存ずる次第であります。

（昭和十六年三月八日放送）

附　錄

ラテン亞米利加諸國の貿易（一九三九年）

	輸出入總額	輸出入總額中に占める割合			
		米國	英國	獨伊	其ノ他
	1,000米弗	%	%	%	%
墨西哥	298,110	69	1.5	13	16.5
グアテマラ	32,280	63	3	22	12
サルバドル	20,500	63	4	19	14
ホンヂユラス	19,570	78	2	8	12
ニカラグア	14,670	73	3	14	10
コスタリカ	25,790	54	8	23	15
パナマ	23,950	62	4	11	23
玖馬	253,540	74	8	4	14
ハイティ	15,450	48	14	22	16
ドミニカ	30,160	38	21	14	27
ベネヅエラ	402,640	26	5	8	61
コロンビア	205,420	60	6	16	18
エクアドル	21,550	69	4	23	24
秘露	120,430	34	15	17.5	33.5
ボリビア	126,350	8	23	3	66
智利	223,040	30	10	25	35
亞爾然丁	762,400	13	24	12	51
ウルグアイ	83,370	10	18	26	46
パラグアイ	14,950	12	7	11	70
伯剌西爾	566,410	35	9	24	32
合計 輸出	1,897,660	19.9	7.4	10.0	20.9
合計 輸入	1,362,920	16.7	4.4	11.2	9.5
計	3,260,580	36.6	11.8	21.2	30.4

英國の對ラテン亞米利加投資額

1937年末現在

サウス・アメリカン・ジャーナル誌に據る

國名	投資額	割合
	千磅	%
メキシコ	178,350	15.44
グアテマラ	10,740	.93
サルバドル	1,120	.10
ホンヂユラス	1,840	.16
ニカラグア	450	.04
コスタリカ	4,740	.41
巴奈馬	—	—
玖馬	33,900	2.94
ベネズエラ	16,530	1.43
コロンビア	6,580	.57
エクアドル	4,540	.39
秘露	29,500	2.55
ボリビア	8,130	.70
智利	87,780	7.60
亞爾然丁	441,500	38.23
ウルグアイ	39,060	3.38
パラグアイ	3,180	.27
伯剌西爾	264,850	22.94
小計	1,132,800	98.10
海運業	13,010	1.13
銀行	8,980	0.78
小計	21,980	1.90
合計	1,154,780	100.00

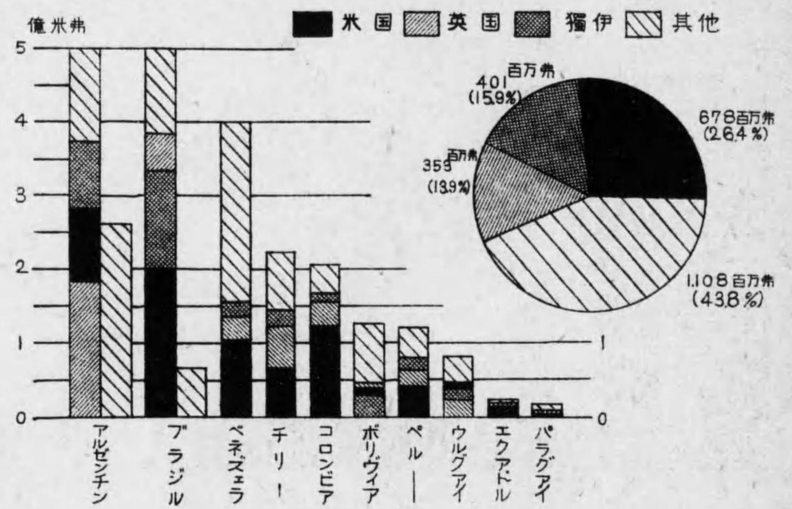
米國の事業投資額

單位千米弗　(1939年度)

國別	工業	商業	農業	鑛業	石油業	公益運輸交通業	雜	合計
メキシコ	8,300	10,810	17,220	213,370	69,040	147,800	12,920	479,470
グアテマラ		83					49,550	50,390
サルバドル							17,160	17,160
ホンヂユラス							36,430	36,430
ニカラグア							4,670	4,670
コスタリカ							13,290	13,290
パナマ							26,690	26,690
小計	—	83	—	—	—	—	147,790	148,862
玖馬	27,110	15,160	264,570	14,740	6.080	314,800	23,800	666,250
ハイテイ	—	—	—	—	—	3,580	6,090	9,670
ドミニカ	—	—	32,930	—	—	4,570	3,020	40,700
其の他	—	—	—	—	20,530	730	15,240	36,500
小計	27,110	15,160	297,500	14,740	26,610	323,680	48,150	753,130
ベネズエラ		830			174,430	10,870	130	186,270
コロンビア	620	2,440			58,580	30,540	15,380	107,550
エクアドル							4,940	4,940
秘露		8,660		47,200		10,030	30,160	96,050
ボリビア							18,340	18,340
智利	4,690	12,060		382,820		79,730	4,440	483,740
アルゼンチン	84,250	28,360				155,500	80,170	348,270
ウルグアイ	7,640	2,880					3,400	13,920
パラグアイ							5,080	5,080
伯剌西爾	50,180	15,610			32,680	84,410	11,460	194,350
ギヤナ							7,500	7,500
小計	147,380	70,840		430,020	265,690	371,080	181,000	1,465,990
總額	182,790	97,640	314,720	658,130	361,340	842,560	389,870	2,847,000
割合	6.4%	3.4%	11.1%	23.1%	12.7%	29,6%	13.7%	100.0%

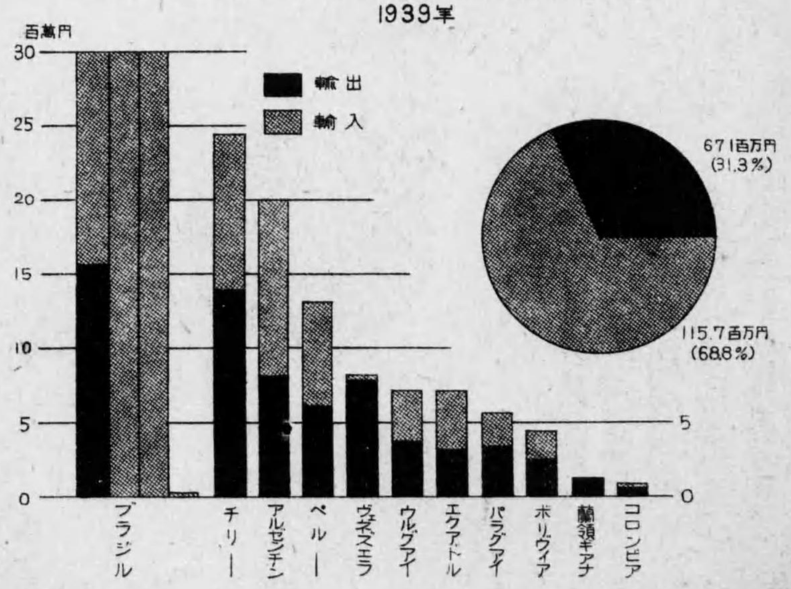
南米諸國の輸出入貿易總額

1939年



本邦對南米諸國輸出入貿易額

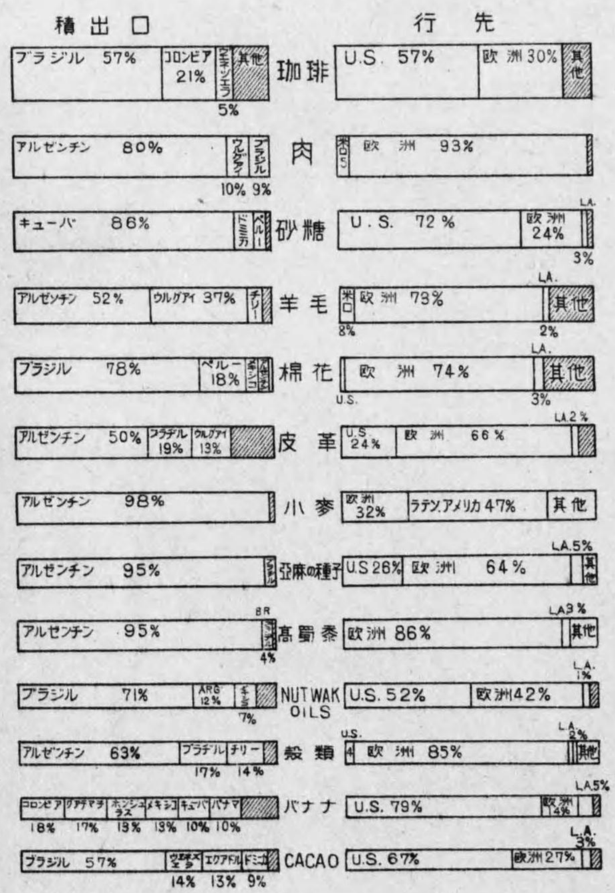
1939年



ラテン・アメリカ主要農産物

輸出状況

1938年



ラテン●アメリカ農產物輸出高

1938 年度

$ 1,003,397,000

欧洲へ	53%
米國へ	32%
ラテン●アメリカへ	5%
其他諸國へ	10%

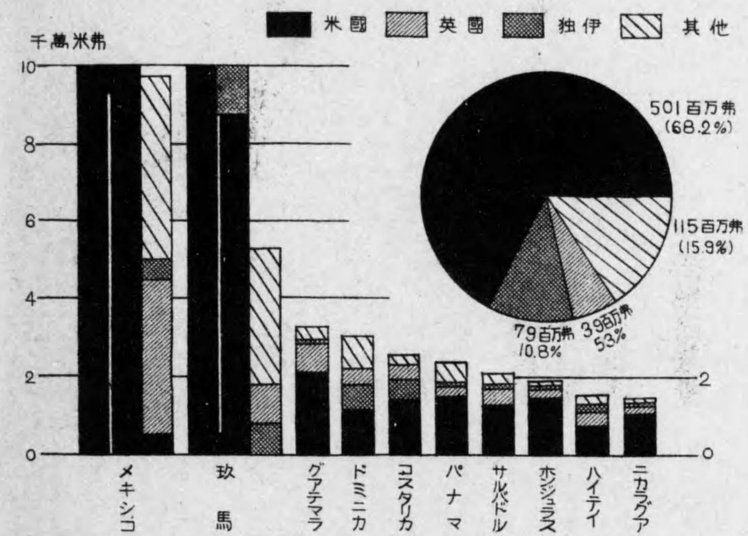
	英國へ	獨逸へ	白耳義へ
牛肉類	74%		
玉蜀黍	28%	19%	17%
羊毛	23%	23%	
棉花	26%	29%	
穀類	22%	16%	13%
小麥	13%		
珈琲		16%	
皮類		25%	
カカオ		20%	

	和蘭へ	佛國へ	日本へ
玉蜀黍	11%		
羊毛		11%	
棉花			17%
穀類	20%		

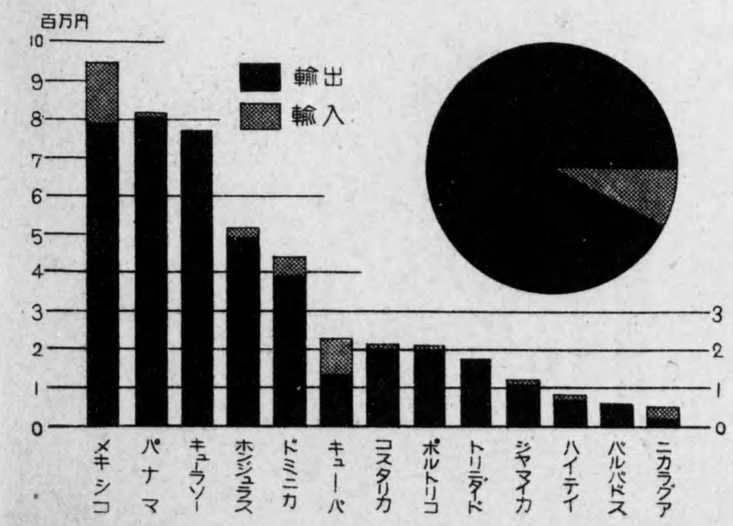
中米諸國貿易額

1939年に於ける輸出入總額

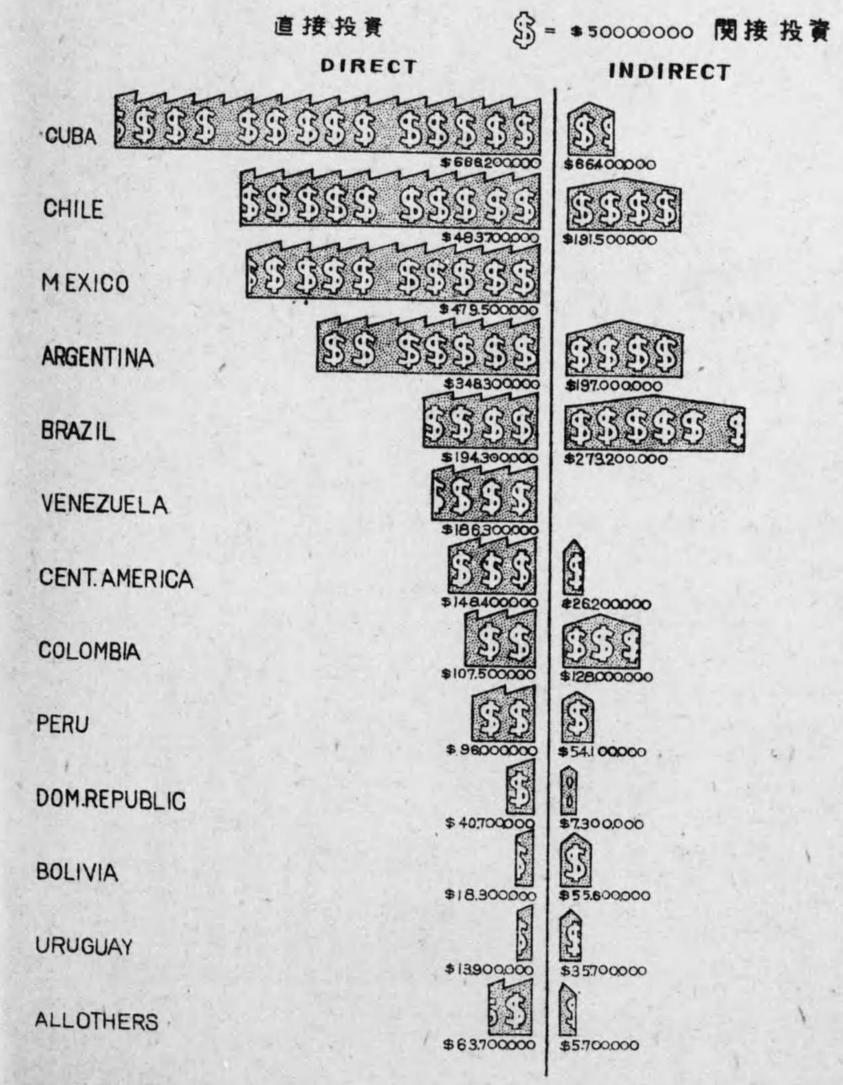
單位百万米弗

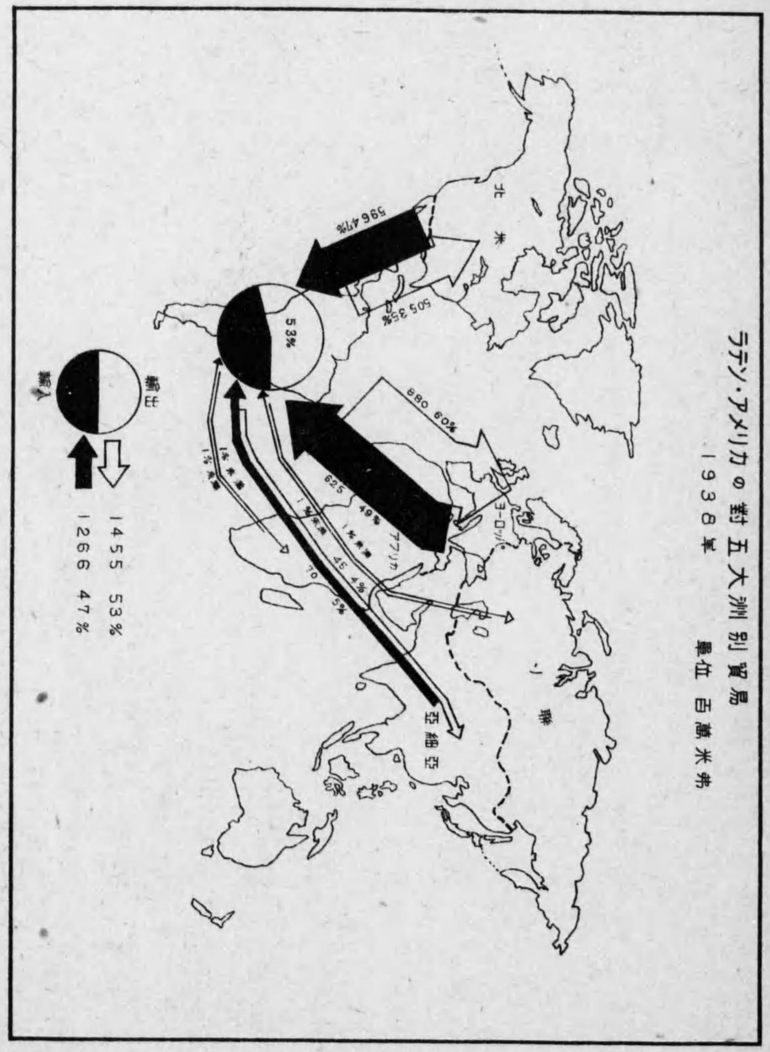


本邦對中米諸國輸出入貿易額(1939年)



亜米利加合衆國のラテン・アメリカ諸國に對する投資狀況 (1939年)





日本中南米協會々則

第一條　本協會ハ中米、南米並西印度諸島トノ通商文化ニ關シ會員相互ノ知識ヲ交換シ其ノ協調及親善ヲ增進スルヲ以テ目的トス

第二條　本協會ハ日本中南米協會ト稱シ事務所ヲ神戸市ニ置ク

第三條　本協會ハ左ノ事業ヲ爲ス

一、倶樂部ノ開設

二、研究會並講演會等ノ開催

三、機關紙ノ發行及圖書ノ刊行

四、其ノ他理事會ニ於テ適當ト認メタル事項

第四條　本協會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、理事長　一名

二、常任理事　五名

三、理事　十五名

四、評議員　若干名

評議員ハ總會ニ於テ之ヲ選任シ、理事ノ選任ハ評議員ニ於テ之ヲ行フ

理事長及常任理事ハ理事中ヨリ之ヲ互選ス
常任理事中ヨリ會計理事二名ヲ互選ス
役員ノ任期ハ二ケ年トス

第五條　本協會ハ理事長ノ推薦ニ依リ顧問及相談役ヲ置ク事ヲ得

第六條　理事長ハ本協會ヲ代表シ會務ヲ執行ス
理事ハ理事會ニ出席シ重要ナル會務ヲ決議ス
評議員ハ評議員會ニ出席シ理事長ノ諮問ニ應シ重要ナル會務ヲ審議ス
會計理事ハ會計ヲ監査ス

第七條　常任理事ハ理事長ノ指揮ニ從ヒ會務ニ從事ス

第八條　本協會ハ中南米ニ關心ヲ有スル個人及法人ヲ以テ組織ス
本協會々員ヲ左ノ五種トス
一、名譽會員　理事長ノ推薦ニ依ル
二、客員　理事長ノ推薦ニ依ル
三、賛助會員　理事長ノ推薦ニ依ル
四、法人會員　年額五拾圓以上ヲ納ムル法人
五、個人會員　1、特別會員　一時金五拾圓以上ヲ納ムル者

2、普通會員　毎月金壹圓宛納ムル者

第九條　會員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介者ヲ要ス

第十條　個人會員ノ入會金ハ金五圓トス

第十一條　會員ニシテ會費ノ拂込ヲ爲サヾルトキ又ハ本協會ノ秩序ヲ紊シ面目ヲ著シク失墜スル行爲アルトキハ理事會ノ決議ニ依リ之ヲ除名スルコトヲ得

第十二條　會員退會又ハ除名ノ場合モ既納ノ入會金及會費ハ之ヲ返還セズ

第十三條　本協會ノ經費ハ會費、寄附金、補助金及其ノ他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第十四條　本協會ニ幹事若干名ヲ置ク、內一名ヲ幹事長トス

第十五條　本協會ニ書記及其ノ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

第十六條　本協會ノ會計年度ハ曆年度ニ依ル

第十七條　本協會ノ會則ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

912
173

年
173 號
韓國事情の紹介（加藤）

昭和十六年四月廿七日印刷
十六年五月五日發行

【非賣品】

神戸市須磨區天神町四丁目五
編輯兼發行人　荒堀禎男

神戸市神戸區三宮町三丁目七七
印刷人　熊谷哲郎

神戸市神戸區三宮町三丁目七七
印刷所　熊谷商店印刷所
電話三宮③四三二六番

神戸市神戸區播磨町四九
神戸貿易會館分館內
發行所　日本中南米協會
電話三宮③四二九一番

昭和拾六年八月壹四日

製本控

912 函	173 號	年 月 日
中南米資料 第1輯 我國の対中南米貿易事情の紹介（加藤源次） 中南米貿易を繞る獨英米の角逐（同） 日本中南米協会編		1冊
備考		

印刷所 [illegible]

電話三局(3)四三三六番

神戸市神戸區榮町四九
神戸貿易會館分館内

發行所 日本中南米協會

電話三局(3)四三九1番

912
173

678.25
N772

終